

松本市教育研修センターだより

No.32 令和6年11月29日

多様な研修で「学びのコミュニティ」づくり

いよいよ冬の足音が聞こえてくる季節となりました。「学びの秋」も深まり、今年度の研修もいよいよ佳境を迎えています。

松本市では、教職員一人ひとりが主体的に学び続け、互いに刺激し合い高め合う「学びのコミュニティ」形成を目指し、多様な研修を企画・実施しています。従来の研修形式に加え、参加型ワークショップや複数回シリーズ、さらには地域資源を活用した体験型研修など、五感を刺激する学びの機会を提供することで、教職員の資質向上と教育の質向上を図っています。今回は、これらの取り組みの中から、11月に実施された「ワークショップ型ミドルリーダー研修」と、松本の歴史・文化を体感する「まつもと学Ⅱ」の2つの研修についてご紹介します。

ミドルリーダー研修

11月18日(月)ワークショップ型ミドルリーダー研修シリーズの第4弾、「インクルーシブな教育環境づくりとミドルリーダー」が実施されました。講師は松本大学の樋口一宗先生です。

前半は「インクルーシブな教育環境」を実現するための基礎知識について、資料を提示いただきながら学びました。

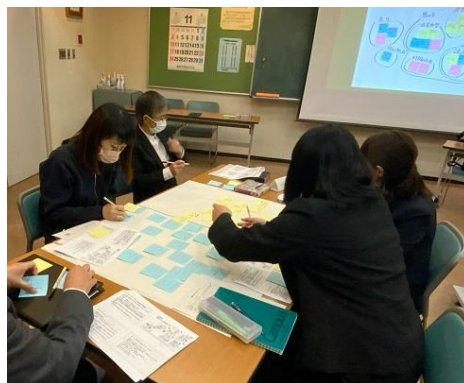
「障がいのある子どもは十分に頑張っています。でも『頑張っても仕方ないなあ』とってしまった結果、反抗的になってしまったりするのです。障がいがある児童生徒が学習に参加するためには、『周り』が変わらなければなりません…」**「ミドルリーダーの役割は、『助言』をすることではありません。先生たちの中にある『アイディア』を引き出すことが大切なのです。」**と、インクルーシブ環境づくりに向き合うための基本的な考え方を改めて学びました。

研修の後半は子どもの「行為」の背景を徹底的に考えてみるグループワークを行いました。子どもが「教室を出ていってしまう」などの行為を起こした原因を「インプット時」「アウトプット時」に分け、徹底的にグループで出し合います。**「ブレインストーミングは、適当にやってはダメ。『もうこれ以上考えられない』ところからさらにアイディアを絞り出すことが大切。いわば頭のマラソンです。」**

悩みながらも粘り強く考え、アイディアを出し合う先生たちに**「こうして子どもの行為の原因を可能な限り考える習慣をつけるのです」と樋口先生は助言されます。**

その後、こうして出し合った子どもの背景を整理し、そこから適切な「対応策」を見出していく道筋を示していただきました。

特別支援教育の根本である「子どもの身になって、あらゆる可能性を考える」ことの大切さとチームで知恵を出し合うことのすばらしさを体験的に気付かせていただく、ミドルリーダーにとってまさに貴重な学びの機会となりました。



【参加者の感想より】

○グループワークではできるだけ多くの可能性を出し合うことがとても大変でした。しかし、この研修からその大変な「あらゆる可能性」を普段から考えるというトレーニングを続けていくことが大切でそれによりその子の抱えている困難は何か、その子のバリアとなっているものを取り除くよい方策は何か、それを見抜く力ついてくることを教えていただきました。…改めて一人ではなくチームで考え合うことの大切さをこの研修で学びました。

○アイディアをみんなで出し合うことは、自分には思いつかないようなことが出てきて、とても有意義でした。一人で考える(悩む)のではなく、みんなで考えるのが大事だと思いました。思いつくことが的を外れていても言い合えることが大切だと思いました。なんでも言い合える職場の雰囲気づくりをしていきたいと思いました。

まつもと学Ⅱ～城下町探索～

6月に開催予定だった「まつもと学研修Ⅱ～松本の城下町のひみつ～」ですが、雨天のため延期となり、11月8日（金）に実施することができました。松本の城下町の魅力を再発見し、子どもたちの学びに活かすことを目的としたこの講座は、昨年度の実施で人気のあったこともあり、今年度も多くの方が参加しました。研修では、研究専門員の小山淳一先生を講師に迎え、城下町の隠された歴史を学びました。

今年度は、松本城の東部を歩いて回りました。市立博物館をスタート地点に、大名町、辰巳のお庭、紙漉川、伊織霊水、東町、横田町、出居番町、水切り井戸、崇教館、太鼓門を経て、旧市立博物館がゴールというコースです。

それぞれの場所で小山先生が当時の様子を解説すると、先生方からは驚きの声が上がリ、そこには見えない歴史の景色を想像しながら語り合う姿が見られました。例えば、松本城で博覧会を開き、城の買い戻しに尽力した人物として知られる市川量造の旧家は、現在駐車場になっています。また、優れた鉄砲製造技術で知られた国友一族の作業場も駐車場になっています。説明されなければ知ることのない場所ばかりで、先生方は熱心に耳を傾けていました。



旧市立博物館の南東には、「ててまがりの井戸」があります。これはかつて松本城の二の丸にあった井戸跡で、大変貴重なものです。しかし、今後の旧博物館解体によって、この井戸跡がどうなるのかという話が出ると、「ぜひ残してほしい」という声が先生方から上がっていました。

歴史を知ること、さらに松本を好きになり、そして子どもたちに伝えたい、そんな思いがあふれる研修となりました。

【参加者の感想より】

- ジオラマでは、松本の市街地の高低差がはっきりと分かった。堀も、高低差を考慮し、水切土手を造ったことが初めて分かった。何気なく歩いていると気づかないことにも気づくことができた。
- 私は今まで歴史に関心がなかったので、松本城だけが後世に残れば十分だと思っていましたが、お話を聞く中で、松本城を含めた当時の街並みを残そうとする人々の思いにも関心を寄せていきたいと思いました。
- 昨年度に引き続き受講させていただきました。駐車場の階段を上ったり、いろいろな小路に入ったり、どこに行くのか、何があるのか、ワクワクが止まりませんでした。総合的な学習の時間に松本城を中心とした「松本の魅力調査」を行っているの、子どもたちに伝えていきたいです。
- 今回のまつもと学を、松本市街地だけでなく、例えば明善地区や島内地区など、地域限定の講座も開いていただけると、その学校の探究学習にいかせると思います。